

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団 明佑会		
事業所名	特定認知症対応型 共同生活介護 グループホーム ひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	平成26年02月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ、本人や家族の思い、希望に合わせてホームでの生活を支えていきたいと思ひます。12月より共用型のデイサービスを開始し現在2名の方が利用になり、利用者や地域の方々の様々な交流の場になればと考えています。又、週に一回は理事長(院長)を交えたケアミーティングを実施し、医療、生活の両面からの看護、介護を提供して行きたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月14日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国花火大会で有名なくま川河川敷近く、幹線道路沿いに『グループホームひかり』が誕生して一年近くが経ち、四季を一巡したことで入居者と職員の新たな関係作りが実を結びつつある。法人理念を継承しホームがお手本とすべき家族愛や、医療、介護のトータル的支援、地域社会への貢献などが指針として網羅されている。開所当初の入居者の不安や職員のあせりは徐々に解消されており、夏まつりや菜園行事が地域交流の機会としてホーム運営に大いに反映されている。保育園児との芋ほり作業は入居者の表情を穏やかにし、目で楽しんだ後は食して味わう一連の流れが認知症ケアにも有効であることを物語っている。地域や来訪者に用意されたパンフレットにも交流スペースや菜園を『交流の場』として地域へ提供することを謳っており、人と人の繋がりを追求する法人の基本姿勢を象徴している。管理者は今回の自己評価を一年の集大成として真摯に取り組み、過大評価や自己満足に陥ることなく正直に現状を綴り、好感の持てる内容となっており、二年目の取り組みが更に期待されることである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週の始まりに理念唱和を行い、各職員に意識付けを行っている。 週一回のケアカンファレンスで理念に沿ったケアの統一を図っている。	母体理念である「手と手を取り合う家族のような愛と献身の精神を信条とします」「全人的医療と看護、介護を提供します」「地域社会の幸せのために尽くします」の三項目を当ホームの理念としており、地域医療に長年貢献してきた法人の志を継承したいとする思いが込められている。開所にあたり各地区の民生委員の定例会に出向き、これまでの経緯や理念を伝え地域の一員としてのスタートをきっている。	職員は開所以来、週初めの朝礼で理念を唱和して共有し、目的意識を持ってこの一年ケアにあたっているが、理念を更に具現化した年目標や、月目標を設定することで小さな課題の解決に繋げ、職員が取り組みやすいものとするなど新年度に検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、芋掘り大会等地域の方、園児等の交流はありましたがまだまだ地域の方に認識されていないのが現状です。次年度は積極的に運営推進会議等を通じて情報を頂き参加し交流を図りたい。	昨年八月の夏祭りには地域へも声かけし、ボランティアによるダンスや屋外でのバーベキューを楽しんでいる。入居者が土に触れることの重要性から始められた菜園作業は地域交流の柱として、芋の苗植えに地元の人々が加わり、保育園児と収穫を喜ぶなど初めての経験が入居者にも刺激になっている。秋には事業所玄関から八代の空に打ち上げられる色とりどりの花火を見学し、祭りで活躍する飾り馬の訪問に感動されるなど地域との接点を持たれている。	地域へ向けあらゆる機会にホームの持つ機能や取り組みをわかりやすく啓発して、先ずは此処を知ってもらうことで地域からの来所に繋がるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域のお年寄りの状況などを聞き必要に応じてアドバイスをを行っている。 (入居者家族様の相談等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況を毎回報告している。又、事例を発表しアドバイスを頂きケアに取り入れている。	昨年六月を初回として推進会議を開催している。行政や包括、地域の有識者や代表者、家族代表者、法人関係者や職員数名が参加し、地域交流スペースを会場として開かれている。この一年は入居者一人ひとりの個性を掴み、日々の関わりから職員との馴染みの関係に発展することに視点を置き、その中でおきたアクシデントを検証して今後活かすなど支援に反映させている。会が増すにつれ家族からの感謝の言葉も聞かれ、職員の励みにもなっている。	行政や地域関係者の参加も多く、多方面からの意見や提案が運営に活かされており、今後も引き続き全家族へ声かけしたり、地元消防団を案内することで地域災害などに共同して取り組むことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの状況、事例を報告している。協力関係はまだ未熟である。	推進会議への行政への参加時には、ホームの現状を発信し、同時に助言や意見を得ている。管理者は申請書の提出などで役所を訪れた機会に担当者ことばを交わし、市のグループホーム連絡協議会に参加し、同業者と情報を交換して、認定調査に関わる行政の見解などを運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か、研修会への参加を行っているが全職員への理解は徹底出来ていない。スピーチロックについても何気なく使っている場面があり注意している。	管理者は一年を振り返り、業務に追われるとどうしても言葉尻が強くなってしまいう場面が見受けられると素直に語っている。中でも「ちょっと待って」が、多く聞かれたことについて、同じ待つにも入居者に理解の得られるような後のフォローが大切だとして、気づいた時に注意し合うことが必要であるとも話している。	スピーチロックへの取り組みは勉強会だけでなく、普段の関わりで職員自らが「今の言葉で良かったかどうか」など、振り返ることのできる人材育成が必要になってくると思われる。今後を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加促し、不適切なケアから勉強している。また虐待が起きないように、職員のストレスが溜まらないように勤務体制等に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解が充分ではない。 研修会等に参加し学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項や契約書等をゆっくり説明致しました。家族の要望はまだあると思いますがうまく引き出せていないと思う。訪問、面会時は状態、状況を報告し要望が聞けるよう担当者が付き添うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、意見を求めている。又、よく来訪して頂いているご家族様に参加して頂き、コミュニケーションを図っているが、まだ運営には生かしきれていない。	家族の面会時には担当職員が入居者の現状を伝えながら、意見や要望を出してもらうよう働きかけ、入居者の運動不足を心配する声などがあがっている。入居者の中には自ら意思表示される方もおられ、義歯の不具合の訴えには訪問歯科により対応し、表現困難な方へも傍に寄り添い声かけすることで返事をされるなど一人ひとりへの配慮を心掛けている。	入居者や家族の意見はその都度記録に残し、その後の対応や報告までを行うことで安心や信頼に繋がるものと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員にも月一回の部課長会議の内容の報告を行っている。 月一回のホームミーティング以外でも気軽に発言出来る雰囲気を中心掛けている。	月一回のホームミーティングはケア会議を兼ね、入居者の情報を共有しながら支援のあり方を協議し、業務についての職員自信の気づきや意見が出されている。管理者は普段から職員が何でも言える環境作りに努めており、新年度からの夜勤手当の改正などを法人代表者に声をあげ、承認を得るなど給与面へ反映されている。また、週一回の定例会には代表者も休診日に参加し、職員の意見を直接聞きながらホームの方向性を示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の部会の勉強会には参加しているが本人の希望に沿った研修等の参加は実施できていない。 夜勤手当はやりがいに繋がるので交渉し千円up了承して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部会への研修へは参加しているが法人内の研修は実施できていない。次年度より同敷地内に有料、通所も出来るので研修計画を作成し実施したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所、グループホーム連絡会の活動を通して定例会懇談会への参加や各事業所の見学等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行いご本人や家族と、どの様に過ごしたいか等、初回の面談時に聞くようにしている。担当者会議の際にも聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の段階での面談は傾聴を中心に行う。本人の現状とグループホームのケア、家族の思いとギャップが出来ないように努めている。まだスタッフの名前を覚えていただけていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人内のサービスは紹介しているが他の事業所や他のサービスを紹介することは出来ていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事をしっかりアセスメントし、利用者の力を奪わないようにする。洗濯物たたみや簡単な調理は行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、管理者や担当のスタッフが出来るだけ付き添い、話をする時間を持つようにしている。状態の変化時にはその都度連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人によって出来ている、出来ていないの差があるのが現状。軽度の方中心になってしまい、重度の方への支援が不足している。(正月の帰宅・墓参り・近くの神社への祭り見学)	入居者は古くから伝わる神社の祭りや花火大会を見学して馴染みの行事に加わり、家族の協力による正月や法事などへの帰宅、墓参りなどが支援されている。一年近くをかけて入居者と職員の関係も馴染みになりつつあり、当初の不安から安心や信頼となって徐々にその表情に表れてきている。その方の生活歴から洗濯たたみなどの得意場面を設定し、干し柿やらっきょう漬け、干し大根作りには長年の経験が活かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間等に昔どんな事をされてきたのか、生活等の話をしたりする。食事の介助の場面が見られたり、ウッドデッキで日なたぼっこ等をしていたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだサービス終了の方はいらっしゃらないが必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めて行きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の本当のニーズを理解できているのかと思う事もある。週一回のケアミーティングは実施しているが業務優先で希望に添えていない事が多い。	初回のアセスメントで得た情報をもとに職員は入居者との日頃の会話から思いを汲み取るよう努めている。「自宅に実った甘夏をちぎりに行きたい」との要望に、一緒に出かけるなどタイムリーに対応している。	今後も入居者の些細な一言や要望を、「入居者の言葉」として記録に残し、プランに反映されるように継続して取り組まれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントは実施したがその後の詳しい情報は把握出来ていない。情報の共有も不十分である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録がまだ不十分でプランにうまくつなげていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を決めてプランの評価を行っている。申し送り時その日の気づきを出し合いケアを振り返るようにしている。	計画作成者はプラン作成にあたり、まずは入居者のニーズを優先し、家族や担当職員の声を反映させるようにしている。自宅からホームへ入居された方へは暫定プランとして立案し、環境への変化に対応しながらリビングでの位置も本人と共に決めていくことやできることで自信や喜びを引き出すような内容を盛り込んでいる。当初は二ヶ月後にモニタリングを行い、実践状況から達成度を分析し、今後の支援に反映するようにしている。また、プランの言葉も見ることがわかりやすいような表現を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては不十分で、たくさんの気づきや情報はあっても口頭で伝えるだけで記録に残っていきケアに反映されていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所の運動会に参加したりして交流は出来たが、全員ではなかった。次年度より同敷地内に有料・通所が出来るので色々なニーズに対応できるように体制を作りたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物場所やドライブ等その方の生活歴に合わせて支援するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	峯苦医院より在宅総合医療の方が5名、通院2名他2名は入居以前から通っていた病院に通院されている。 緊急時は24時間峯苦医院にて対応している。	これまでのかかりつけ医を基本とし、法人医療機関からの往診以外は、バイタルや食事・排泄等が記入された受診ノートを作成し、家族対応で行われている。法人医師は往診以外でも週一回の勉強会に来訪するため、常に入居者の健康状態を把握することができ、家族や職員の安心にも繋がっている。	入居者の健康状態を把握するためにも、定期的な体重測定が必要と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	峯苦医院へ24時間何かあればすぐに状態報告し指示してもらっている。毎日の状態等異常があればその都度報告し今後の対応について検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会や電話連絡等を密に行い状況確認している。 退院後の対応等、医師と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し看取りの必要性が生じた場合の指針作成中。利用者の状態によりケア会議を行う家族の意向や本人の希望等再度確認し一緒に話し合う機会を作る。	現在重度化や終末期に関する指針が作成中である。家族の半分程の方がホームでの看取りを希望されており、数名に関しては医師との話し合いの機会も持たれている。看取りに対応する場合の部屋は確保されており、今後は職員の体制が課題であると管理者は語っている。	終末期支援の有無に関わらず、入居者の最終の場面に関わる心構えや、必要に応じた研修会の開催が望まれる。また、今後も入居者にとって最良の日々への支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の救急救命蘇生法の研修に参加している。定期的に勉強を行っていく必要がある。急変や夜間の対応で不安に思っているスタッフが多く支援が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施したが対応、誘導が不十分であり繰り返し訓練が必要である。 地震対策について具体的な訓練の実施が出来ていない。	開所して一年目のホームは11月に台所からの出火を想定した自主避難訓練と三月末に二回目が予定されている。訓練では火元を通過して避難したことや職員間の連携不足が反省点にあげられているが記録としては残されていない。備蓄については排泄用品や缶詰などは多めに確保されている。	今後は消防団や地域高校との日頃からの連携や、訓練前には近隣(高校やコンビニ店など)への告知も必要と思われる。また、日々の安全点検を日誌などの項目に設け意識付けを図ったり、備蓄についての職員の共有にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ等基本的なケアの場面で配慮が必要と感じる事もある。急いでいる時等、つい言葉、口調が荒くなってしまう場合もたまにある。	入居者の呼称については基本的に苗字にさん付けとし、同性介助についても希望に添って対応している。居室のタンスへ収納品を明記する際も本人の意向を尊重して対応している。(あからさまにパンツとの明記)管理者は入居者への対応でまだ十分ではなく、今後も意識を持って接することができるよう努めていきたいと語っている。重要書類は事務所内で管理され、職員の守秘義務については周知徹底が指導されている。	今後、隣接して開所する施設と合同で接遇をはじめ、プライバシーに関する研修が予定されており、職員の共有が図られサービスの向上に活かされていくことに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が上手く聞き出せず、職員の都合でいろいろ決めている事も多い。表現や、仕草によりご本人の思いを知ろうと努力しているが充分ではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望に合わせて外出等は時々行っている。その日の季節や気候に合わせた声掛けや促し方が職員が出来ていない。また身体的なケアが中心になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に訪問される美容室の方をお願いしている。家族がひかりでカットされる方もある。外出の際にはおしゃれをしたりするが日常的には出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に合わせて下ごしらえ(炒り子の頭取り)、皮むきは時々行っているが職員が中心となっている事が多い。今年は、干し柿作り、切り干し大根作りを実施。テーブル拭き、下膳は手伝って頂いている。	法人の管理栄養士の作成した献立を使用しながら、団子汁などの郷土食や時には手作りおやつを楽しんだり、正月は地域の仕出し料理で新年を祝っている。食材は地元商店に発注し(八百屋・精肉・米など)、不足分については週末買い出しに出かけている。入居者が食に関わることは限られているが、切干し大根や干し柿作りをはじめ、日常的にはテーブルを拭いたり、下膳などできる事が支援されている。また、家族にも声をかけ手作りケーキで祝う誕生会や職員が持参したふきのとうを食卓に並べ、一足早く春を味わう機会が持たれたようである。	本人が持参した茶碗・汁椀・箸・スプーンを使用し、職員も一緒に食事を摂り見守りや介助を行いながら支援されており、エプロンの使用についてはタオル等で対応できないか、また、使用方法についても検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事にムラがある方は一日三食と考えず、食べれる時に食べられるだけの意識でケアしている。栄養バランスについては、12月より管理栄養士がメニュー作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方の状態に応じて歯ブラシを使用して介助を行っている。訪問歯科の利用も行っている。毎食後は実施できていない。義歯の方は必ず夕食後外して洗浄している。(洗浄剤使用)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンもチェックを行い声掛け、誘導の時間の検討を行っている。出来るだけ日中はパンツで対応している。一人のトイレ介助に時間がかかったり、適切にきちんと誘導出来ていない場合もあり、失敗で不快な思いをさせてしまっている。	自立の方の継続やパターンを掴み、日中はトイレへの誘導支援を行い、殆どの方がリハビリパンツを使用しているが、入居後布下着に変わられた方もある。夜間も個々に応じた排泄用品やポータブルトイレを使用され、担当職員によって洗浄・消毒・日光干しや本体のハイター拭きなど衛生管理が徹底されている。また、使用しない時は廊下で保管するなどプライバシーにも配慮した取り組みである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト等の乳製品を意識して食べてもらったり、散歩等の運動腹部マッサージを行っている。薬の効能等勉強したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状況にもよるが朝から夕方まで出来るだけ声掛けし希望に合わせて対応している。岩風呂風に浴室の壁をデザインした。スロープもある。	スロープで使用できる風呂と個浴が設けられており、身体状況に応じ、週三回から四回、希望があれば毎日でも支援を行っている。同性介助にも対応しながら入居者がゆっくり寛げる入浴を心がけ、冬至のゆず湯支援では、たっぷり体感できるよう一週間にわたって行われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座位の状況や体調に合わせて自室やリビングチェア、畳コーナーで休んでもらっている。長時間の座位は避けて椅子や場所を変えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用、用法、用量については処方箋ファイルし閲覧している。薬のセットは準備の時に毎回確認している。新しい薬は、ケアミーティングで確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握については充分に出来ていない。また出来ている方もその内容の理解が不十分である。 毎日の役割は一人一人に特化した支援と言うのが不足している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、散歩等希望があれば出来るだけ行っている。軽度の方が中心になっている。外出も計画を立てて行っており、日常的ではない。	日常的な外出は介護度の軽い方が中心となっているが、近隣店に出かけたり、散歩の支援が行われている。花見(桜・紫陽花など)や、SL見学など計画した外出、地域保育園児との芋ほり交流の様子は記録写真にも残されている。また、本人の希望で自宅の甘夏ミカンの収穫を楽しみ、その後はおやつで食されている。	現在、隣接地に開設する法人施設の工事が行われており、安全面から散歩の機会が限られているが、落ち着きしたい日常的な外出が展開されることに期待したい。また、外出の機会が少ない方へも、庭先での日光浴や菜園を眺めるなど可能な限り、戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。買い物の際は自由に選んで買って頂いている。お金を自分で持つて払う人のレベルが少なくほとんど職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時はいつでも好きな時に電話をかけても良いが、ほとんど実施はしていない。お手紙等届いた際は代読している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁紙作りは実施しているが、季節の花を飾ったり、細やかな配慮が不足している。温度管理には気を使い、声掛け、体調、表情を見ながら調整している。	リビング・ホール内は入居者と一緒に作成した季節ごとの壁面や外出時の写真を掲示し、室温は入居者の表情を確認したり体感具合を尋ねながら調整し、居心地よく過ごせるように努めている。休憩や洗濯物たみなどに利用される段上がりの畳スペースは、職員の意見により移動ができるよう改修されている。開設して一年のホーム内は、日々職員によって掃除が徹底されているが、モップを片手に廊下を掃除される男性入居者など共に環境整備に取り組んでいることが記録写真からも確認された。	ホームの環境は自然に恵まれた立地でもあり、今後は散歩中に見つけた草花などを飾ることで、季節感のある空間になると思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの窓側や畳コーナーはゆっくり出来る空間であるが職員の気づき配慮が不十分である。見守りのしやすさを優先している場面がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族には相談し思いで深い物をと説明しているが他施設からの入居者が多く現状の生活空間としては寂しい部屋もあり、本人らしい部屋にはなっていない。	馴染みの品々に囲まれて過ごすことは本人にとって安心に繋がることから、管理者は入居時に使い慣れた家具や物品について説明を行っている。日々の換気や掃除は職員が中心に行っているが、衣類の入れ替えは家族が協力される事もある。基本的に居室の移動は行わないが、見守りの必要性からこれまで本人・家族の了承の元実施された例もある。	持ち込みの品の多少に限らず、今後は家族と協力しながら、身体状況に応じた物品の移動や季節の品の持ち込みなど、本人にとって居心地良く過ごせる環境に努めていかれることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は基本的にはバリアフリーである。玄関にもスロープを作っており、フロアより廊下を見渡せ手すりも全壁に設置しており、職員の見守りや介助がトータルに安全を確保することになっていると考えられる。		